

National Statistical Office, Office of the Prime Minister, Government of Thailand: *Statistical Yearbook of Thailand, Number 24, 1963.* National Statistical Office, Bangkok, 1964. 496p.

地域研究にさいしての基礎的な資料は、いうまでもなく地図と統計とである。低開発国における統計の信頼性については、大いに問題とされるところである。しかし、たとえその信頼性がどうであれ、なんらかの、まとまった全国統計は、その国の理解のためのあしかりとなる。統計がでていうことと、その統計の信頼性とは一応きり離して考えるべきだ。往々、「統計はあてにならない」といいきって、既発表の統計の収集に努力しないような研究態度は、地域研究者として戒められねばならないであろう。

さて、タイは、東南アジアにおいては、比較的統計の整備された国である。このタイの全国統計の最もまとまったものが、ここに紹介するタイ国統計年鑑(第24巻)1963年版である。

すでにタイ国統計年鑑は3巻まで出版されてきたが、この1963年版から総理府国家統計局によって刊行された。これは従来は国家経済開発庁中央統計局によって出版されていたが、統計局が総理府直屬に改組されたためである。

本巻は既巻のものと同じく、人口・行政・経済活動・社会事情等の全国的統計をふくめ、この国の主要統計を網羅している。しかし、本巻では、既巻とは異なり、面積・地理・気候・人口・教育・農業・外国貿易・財政・通貨銀行などが、詳しくなっている。しかも、統計局は主として人口統計と家計費調査とを担当し、それ以外のデータは、各担当省や部局のそれによっている。

その内容はつぎの大項目からなる。

1. 面積・地理および気候
2. 人口
3. 公衆衛生と出生死亡
4. 移入民と国籍取得
5. 教育
6. 司法
7. 協同組合
8. 農業

9. 漁業
10. 林業
11. 鉱業
12. 運輸通信
13. 外国貿易
14. 通貨と銀行
15. 物価
16. 財政
17. 政府職員
18. 国民所得
19. 家計費調査

わたくしは、これらの統計をしばしば使用するが、よくぞここまでタイの政府機関がここまで統計を整備するに至ったかと思うと、その努力を高く評価せざるをえない。そしてまた本統計書をタイ研究のための基本的資料として広く推賞したいと思う。もちろん、この統計書は政府出版物として非売品である。だから、ここにこれを紹介しておくことが、とくに必要だと思われる。(本岡 武)

Paul Sithi-Amnuai: *Finance and Banking in Thailand, A Study of the Commercial System, 1888-1963.* Thai Watana Panich, Bangkok, 1964. xvi + 224p.

タイ国経済の安定性と成長率は、低開発国のなかで、高く評価されている。低開発国の経済発展についての制約として、低貯蓄—低投資の悪循環が指摘される。この悪循環をもたらすことの、ひとつの理由として、金融制度なり、銀行制度の未発達なことがあげられる。

この銀行制度、とくに商業銀行制度について、1888年(タイにおける最初の商業銀行が創立せられた)から1963年に至るまでの歴史的研究と現状分析とを合わせたのが、本書である。これは、タイ経済の理解のためのみならず、後進国経済開発のための実証的研究として、重要な収穫だと思われる。

主著者バンコク銀行副頭取 ポール・シティー・アムニューアイ氏を中心とする同銀行の調査部員によって、本書はまとめられている。

まず第1章はタイ経済の概要を要領よくまとめてある。とくに、そのおわりに、タイ経済の前途について